

コース名 実践を学びあうコース	2024年度回数 5回	担当者 田村和宏
--------------------	----------------	-------------

授業の内容

最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護、措置が多くみられています。目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿に大きく影響をしています。その子の姿を捉え支えていくことが複雑化・困難化してきています。でもそこを共有することなしにその子の「明日が拓かない」というのが実感ではないでしょうか。

また、8050とその先の問題。知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなり、「どうしていくことが必要なのか悩んでいる」という人も多く見られています。さらに、“暴れん坊”の子どもたちに困り果てている現場もあります。それぞれの実践現場で、「それぞれ多様な曲がり角」にさしかかり、どうしていけばいいのか困っているのです。どうしても問題点ばかりが議論されて、息がつまりそうだという声もまたよく耳にします。でも、「本当に本人さんの声なき声から実践や取り組みや支援を組み立てることができていますか？」

そう感じてしまうときというのは、実践のなかで、目の前の彼女たちの「らしさ」を、いつ、どこで、どういうときに、どんなタイミングでどうみられたの？とか、その人の歴史からその人となりを感じながら「その人らしさの、エピソードでいいから話してみること」が足りないのではないかと思います。それは、本来楽しいものです。そうなるような雑談をレポートにしたものでも議論の入口にして、何が大切なのか共有できるような力量をつけていきましょう。

このコースは、日々向き合っている障害のある子どもや青年の姿、とりくみ（活動や仕事）を、参加している多様な職場の人たちの眼でいっしょに解きほぐすことで、自分の実践を多様な視点から見直してみる時間です。そうすることで、「わたしも、なかなかやん」と自信を取り戻したり、その実践がもつ価値を確認したり、子どもたちの内にある「ねがい」にも触れる、そして新たな発見や気づきに出会える、そんな時間です

参加者が実践報告をします。その報告について、参加者みんなで議論しながら、時にテーマをもって討議を行います。この時間が発達保障実践の推進力や幅を広げていくのだといえます。これまでの実践報告や昨年度のまとめなどを持ち寄って、いろんな角度から学び直しませんか。また、実践報告からの学びだけではなく、簡単な文献読解や講師のミニ講義も必要に応じて行います。

人間が好きになるそんなコースに、一緒にしていきませんか。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

第1回 6月23日（日）9:30~12:30 自己紹介、実践状況、私の学びたいこと、ミニ講義

第2回 9月29日（日）13:00~16:00 実践報告① 実践報告② ふりかえりとコメント

第3回 11月24日（日）13:00~16:00 実践報告③ 実践報告④ ふりかえりとコメント

第4回 1月26日（日）13:00~16:00 実践報告⑤ 実践報告⑥ ふりかえりとコメント

第5回 3月2日（日）13:00~16:00 実践報告⑦ ふりかえりとコメント まとめ講義

※予備日 上記の日程で終わらない場合に予備日の設定がある

※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください